

# 長期欠席児童生徒及び保護者 アンケート調査結果

令和6年2月  
奈良市教育センター  
教育支援・相談課

---

## 目次

・アンケートについて	
➤ アンケートの目的	2
➤ 対象者	2
➤ 実施期間及び方法	2
➤ 回収結果	2
・アンケート集計結果	
➤ 児童生徒、保護者の共通の設問 1～14	3
➤ 児童生徒への設問 15～41	7
➤ 保護者への設問 15～36	12
・調査結果を踏まえて	16

### 【参考資料】

- ・アンケート質問内容一覧（別添）

## 【アンケートについて】

### <アンケートの目的>

奈良市ではこれまで、学校に行きにくいと感じる児童生徒やその保護者に対する支援として、子どもたちが学習に取り組んだり、他者とコミュニケーションを図ったりすることができる学びの場づくりや、保護者同士が互いの悩みや思いを共有できる交流の場づくり、心理カウンセラーによる教育相談を受けられる場づくり等の取組を行ってきた。更に令和3年度には個の実態に応じた支援の充実を目指し、公設フリースクールを新たに開設し、令和5年度には校内フリースクールをモデル的に実施するなど、多様な学びの場の確保に取り組んでいる。

一方で、近年の不登校児童生徒数の増加や、不登校の要因の多様化複合化、更に子どもの実態に応じた学び方のニーズの多様化といった背景から、これまで以上に個別最適な学びの提供や支援の充実が求められている。

これらの状況を踏まえ、本市が現在取り組んでいる不登校支援事業を振り返るとともに、今後の支援体制を更に充実させるため、不登校傾向にある児童生徒やその保護者を対象としたアンケートを実施し、奈良市の不登校児童生徒の傾向や実態、ニーズを把握することとした。

### <対象者>

令和5年度小学2年生から中学3年生のうち、令和4年度に30日以上学校を欠席した児童生徒及びその保護者

※参考1

令和4年度奈良市の不登校児童生徒数 839人（小学生287人、中学生552人）

※参考2

不登校の定義・・・文部科学省の調査では、年間30日以上欠席した児童生徒のうち、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）」と定義している。

### <実施期間及び方法>

令和5年9月12日から9月29日（計18日間）

- ・市立小中学校に児童生徒が在籍するすべての保護者に、さくら連絡網等でアンケートの実施案内を配布
- ・そのうち、上記<対象者>に該当する児童生徒及びその保護者に回答を依頼
- ・回答はすべてオンラインによる

### <回収結果>

児童生徒：190件（小学生：83件、中学生：98件、学年回答なし：9件）

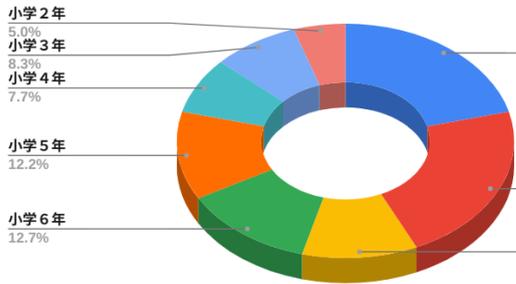
保護者：484件（小学生の保護者：184件、中学生の保護者：284件 学年回答なし：16件）

# 【アンケート集計結果】

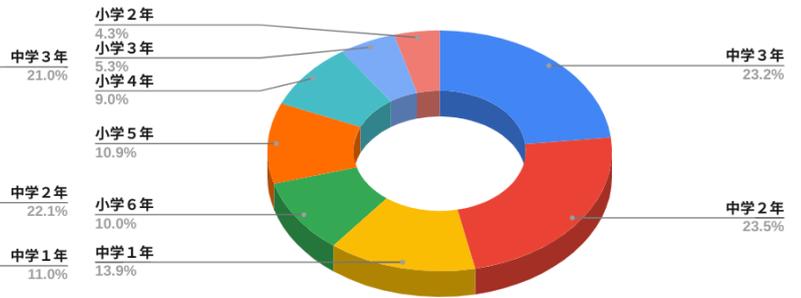
## ＜児童生徒、保護者の共通の設問＞設問1～14

➤ 設問1 現在の学年を教えてください。

児童生徒

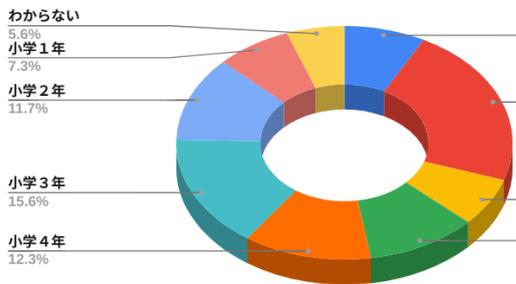


保護者

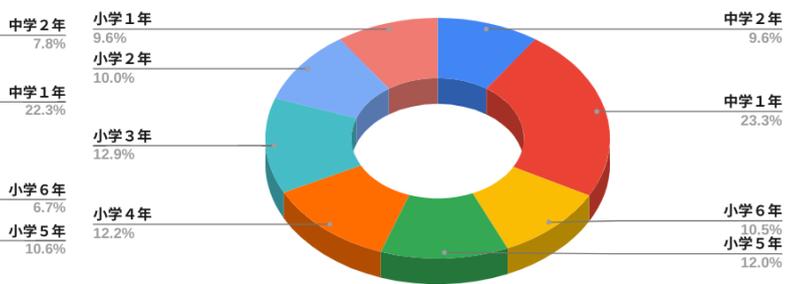


➤ 設問2 いつ頃から学校を休む日が多くなりましたか。

児童生徒

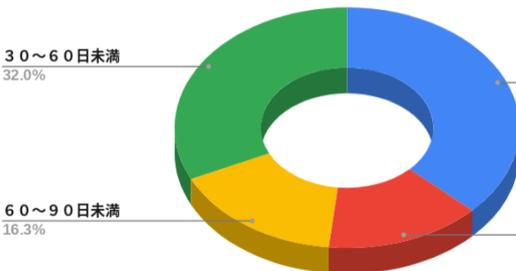


保護者

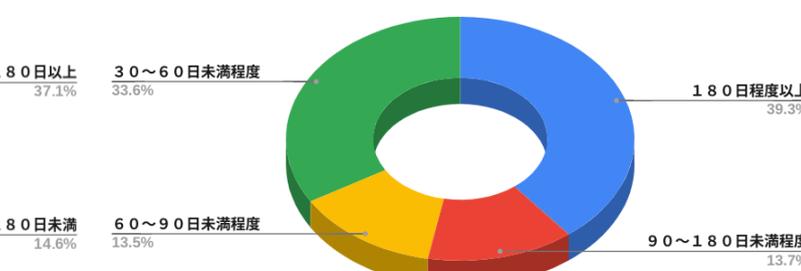


➤ 設問3 昨年度1年間で休んだ日数を教えてください。

児童生徒



保護者



➤ 設問4 自分の教室以外で通っている場所を教えてください。

児童生徒

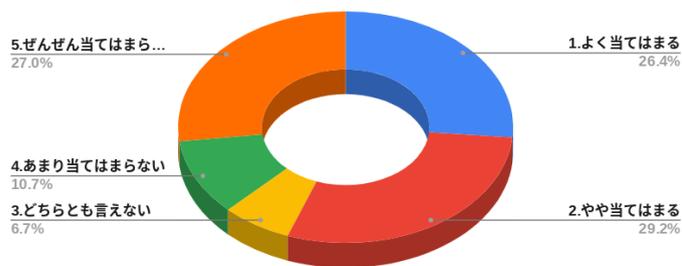
保護者



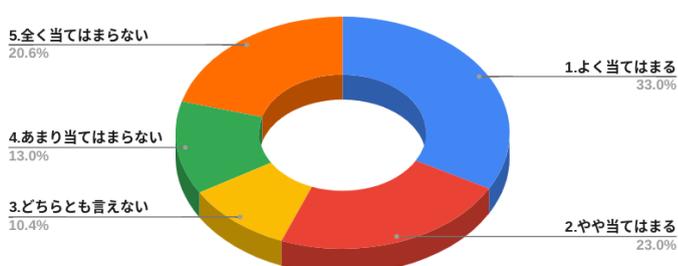
## 学校を休んだ理由を教えてください。設問5～14

### 設問5 (身体の不調)

児童生徒



保護者

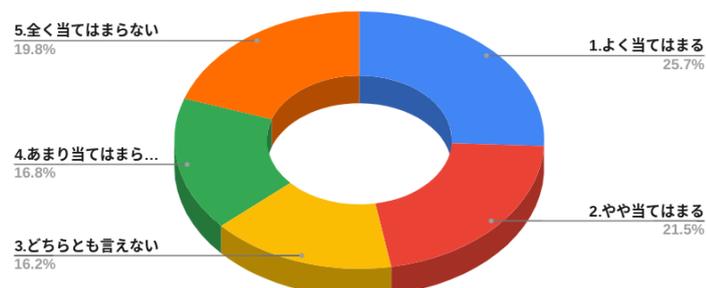


### 設問6 (勉強・授業)

児童生徒

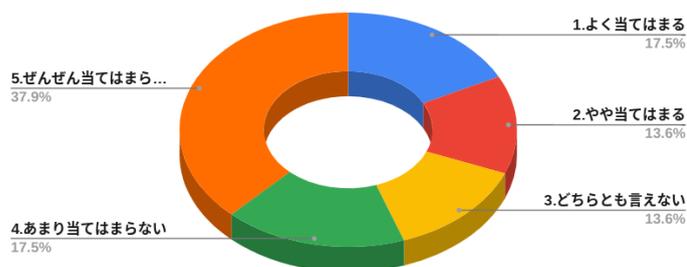


保護者

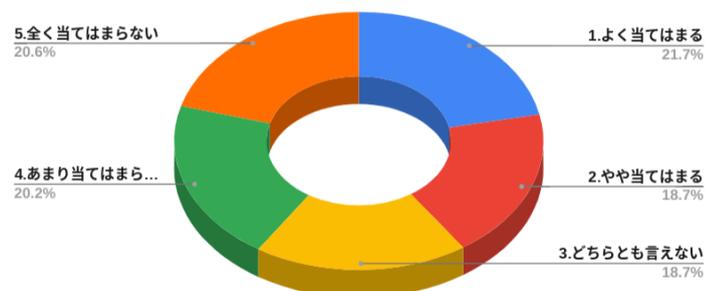


### 設問7 (先生との関係)

児童生徒



保護者

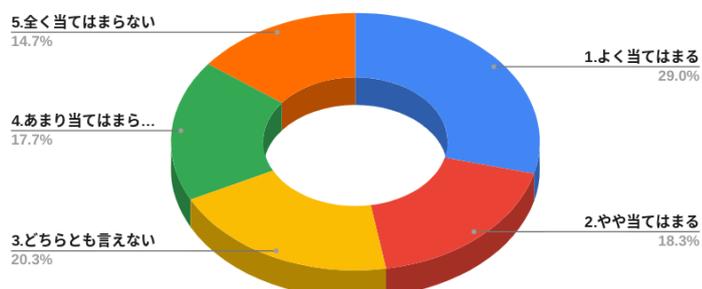


### 設問8 (友達との関係)

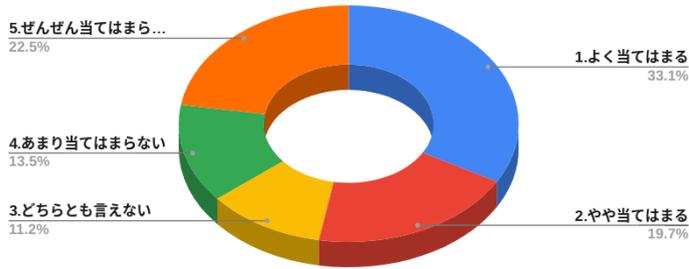
児童生徒



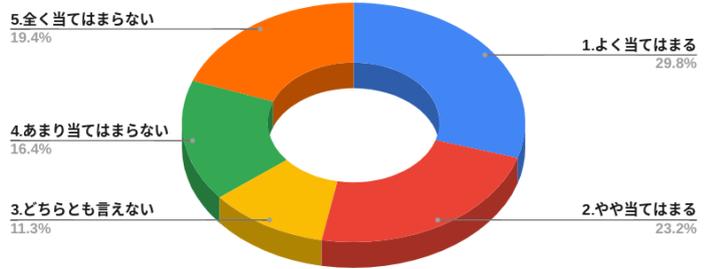
保護者



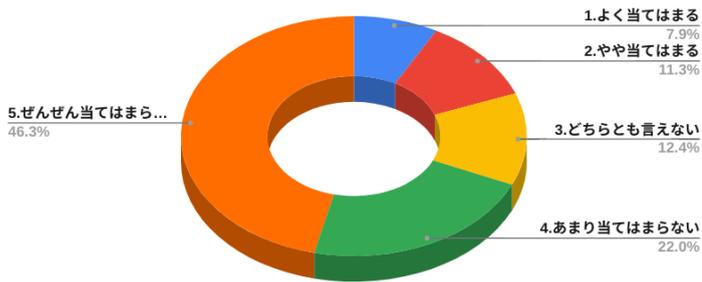
➤ 設問9 (生活リズムの乱れ(寝坊したなど))  
児童生徒



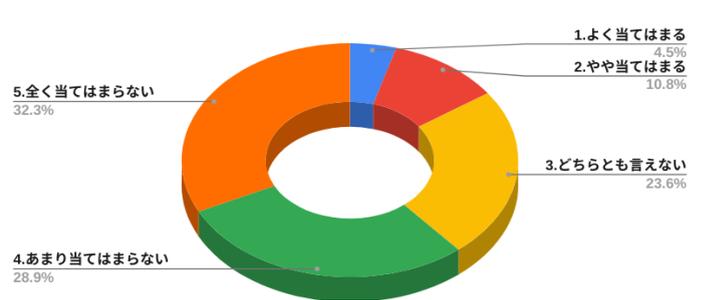
保護者



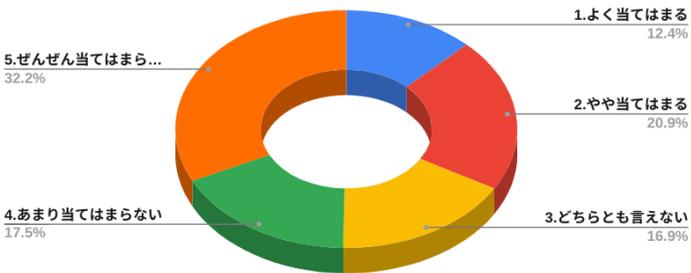
➤ 設問10 (家でのこと)  
児童生徒



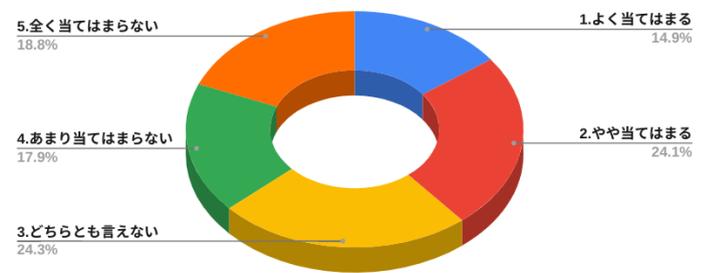
保護者



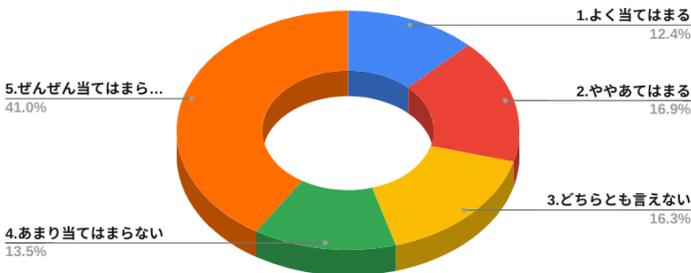
➤ 設問11 (学校行事/クラブ活動/学校のルール)  
児童生徒



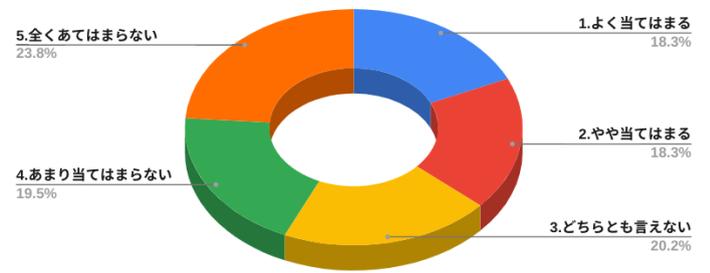
保護者



➤ 設問12 (インターネット/ゲーム/SNS)  
児童生徒

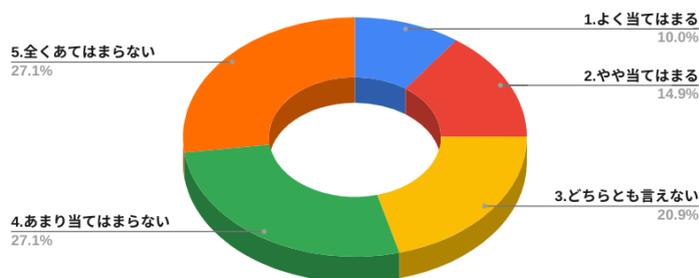
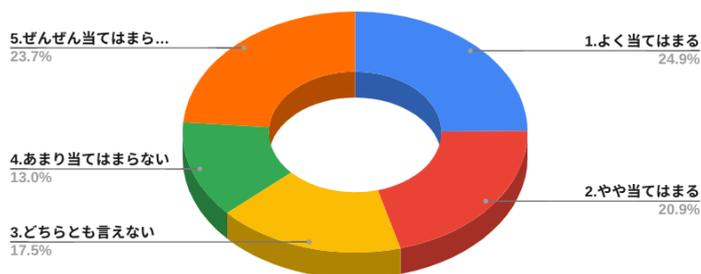


保護者



➤ 設問13 (理由がわからない)  
児童生徒

保護者



➤ 設問14 (自由記述)

主な回答

- ・ 児童生徒
  - 先生や友人など対人関係に関する事、授業に関する事、体調不良に関する事など
- ・ 保護者
  - 先生や友人など対人関係に関する事、体調不良や発達障害に関する事、学校の雰囲気など

概要と傾向

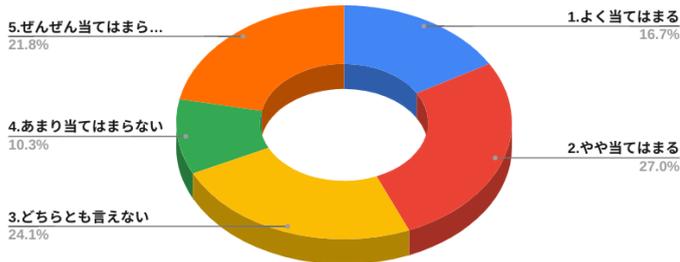
「学校を休んだ理由を教えてください。」について

- ・ 児童生徒、保護者とも、「身体の不調」「生活リズムの乱れ」を要因と回答した割合が半数を超えている。
- ・ 児童生徒の回答では、「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「理由がわからない」を除くと、「勉強・授業」が約51%、「友達との関係」が約37%、「学校行事・クラブ活動・学校のルール」が約33%、「先生との関係」が約31%、などすべての項目において一定の回答割合が見られる。
- ・ また一方で、児童生徒の回答では、「友達との関係」「学校行事・クラブ活動・学校のルール」「先生との関係」「インターネット・ゲーム・SNS」「家でのこと」の項目は「あまり当てはまらない」「ぜんぜん当てはまらない」と回答した割合が半数を超えている。
- ・ 「理由がわからない」については、「よく当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた回答が、児童生徒と保護者の間で差異が見られる（児童生徒約46% 保護者約25%）。また、保護者は児童生徒と比較して、学校のことや友達のことなど外的な要因を感じている割合が多い傾向がある。

## <児童生徒への設問>

### 学校を休んでいるときに嬉しかったこと。設問15～19

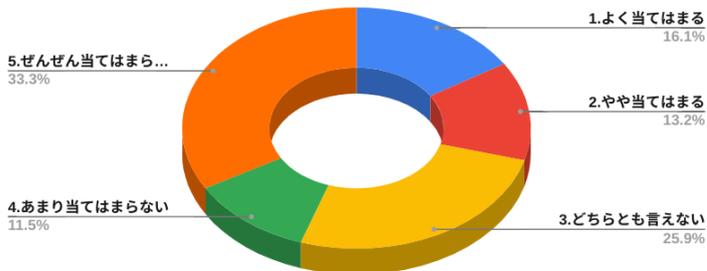
#### ➤ 設問15 (学校の先生からの家庭訪問や連絡)



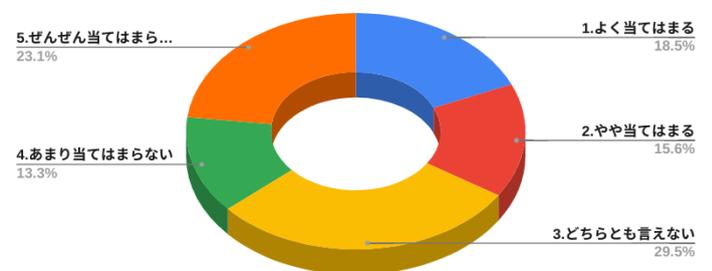
#### ➤ 設問16 (友達からの声掛けや連絡)



#### ➤ 設問17 (学校のオンライン授業での学習)



#### ➤ 設問18 (学校以外の学びを見つけることができる)



#### ➤ 設問19 (自由記述)

##### 主な回答

- ・携帯で遊ぶ時間が増え、ゲームの時間が増えた。
- ・自由な時間が増え、ストレスが減少した。
- ・自分のペースで勉強でき、趣味に没頭することができた。
- ・家族との会話が増え、安心して過ごせた。

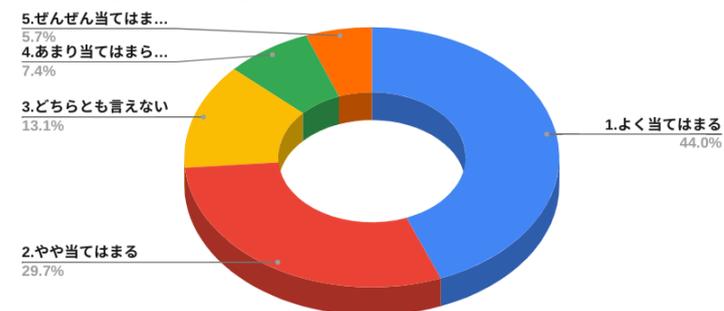
##### 概要と傾向

##### 「学校を休んでいるときに嬉しかったこと。」について

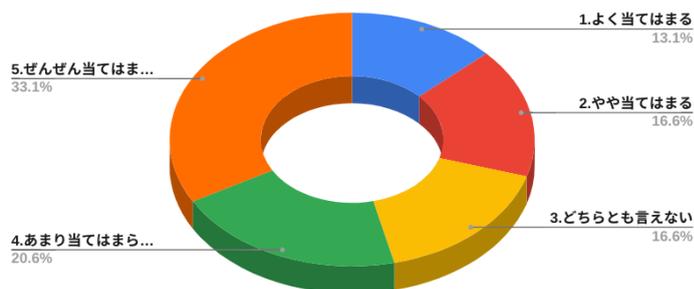
- ・児童生徒が休んでいる間の先生や友達からのアプローチについては、肯定的な回答している割合が、否定的な回答をしている割合より多い。
- ・オンラインによる学校の授業配信や、学校以外の学びを見つけることについては、肯定的な回答をしている割合が否定的な回答をしている割合より少ない。

## 相談できる人は誰ですか。設問20～29

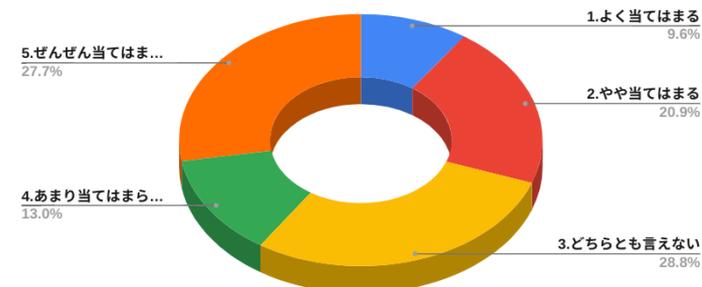
### ➤ 設問20 (家族)



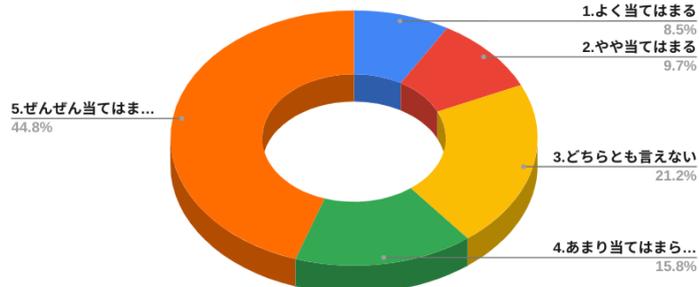
### ➤ 設問21 (学校の友達)



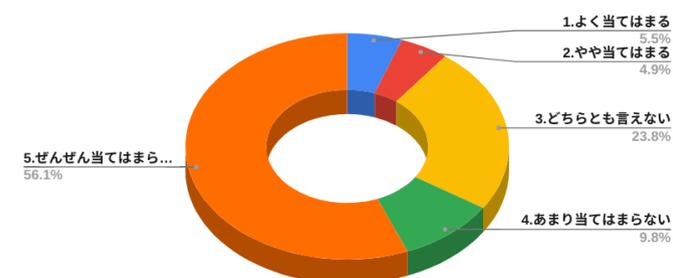
### ➤ 設問22 (学校の先生)



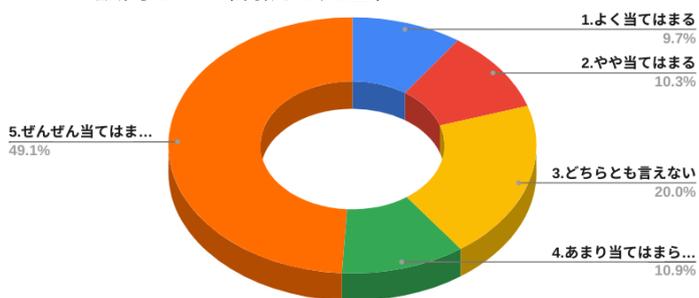
### ➤ 設問23 (学校のスクールカウンセラー)



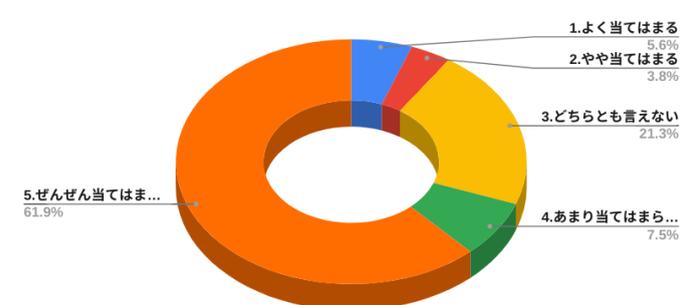
### ➤ 設問24 (奈良市教育センターのカウンセラー)



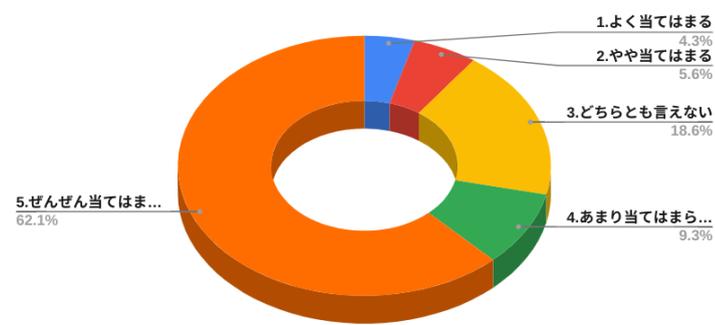
### ➤ 設問25 (病院の先生)



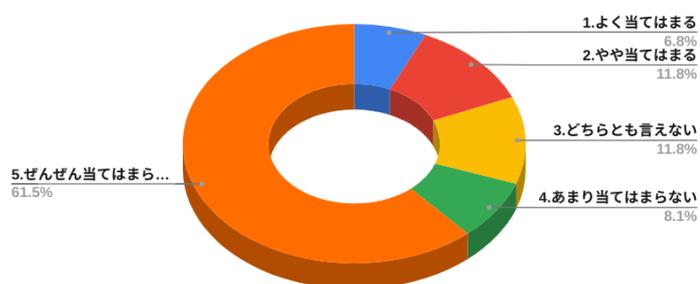
### ➤ 設問26 (フリースクールの先生)



### ➤ 設問27 (習い事の先生)



➤ 設問 28 (ネットの友達)



➤ 設問 29 (自由記述)

主な回答

・いここ、祖父母、家族や友人関係などを相談先とした回答がみられた一方で、stand byなどのアプリを活用した相談ツールの利用者も見られた。

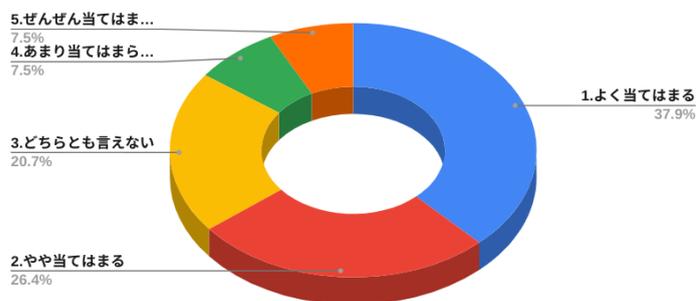
概要と傾向

「相談できる人は誰ですか。」について

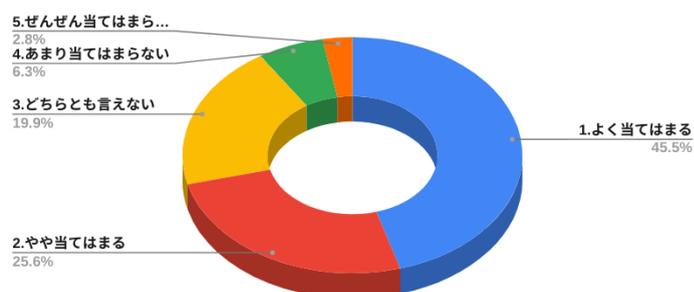
- ・児童生徒の相談相手としては、「家族」の割合が約7割と一番多い。次いで「学校の先生」の約3割、「学校の友達」の約3割となっている。
- ・子ども自身がスクールカウンセラーに直接相談している割合は、約2割弱となっている。一方で、保護者がスクールカウンセラーに直接相談している割合は、約5割弱となっている。

## どのような学校なら行きたいと思いますか。設問30～34

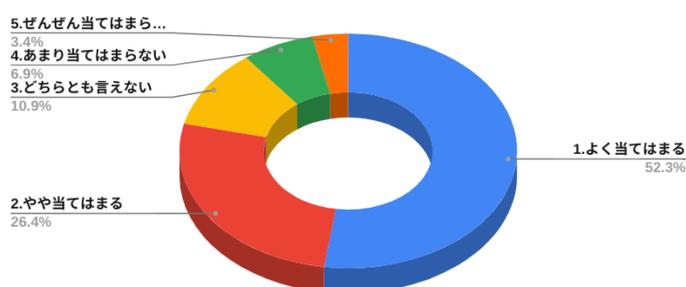
### ➤ 設問30 (授業が楽しい)



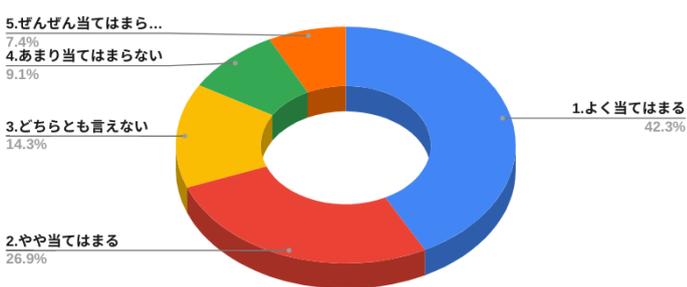
### ➤ 設問31 (やりたいことを自分で選べる)



### ➤ 設問32 (ゆっくり休める場所がある)



### ➤ 設問33 (自由な時間に登下校できる)



### ➤ 設問34 (自由記述)

#### 主な回答

- ・自由な学校で、授業や先生を選べる
- ・自分のやりたいことを優先できる
- ・静かで校則が緩く、先生との関係も良好である
- ・少人数のクラスで友達と楽しく話せる
- ・上下関係やいじめがない
- ・早退がしやすい環境である
- ・得意なところを伸ばす授業がある

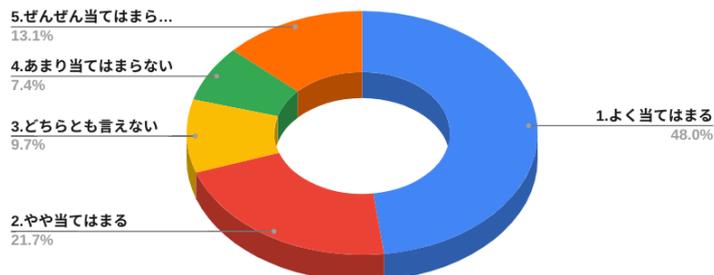
#### 概要と傾向

「どのような学校なら行きたいと思いますか。」について

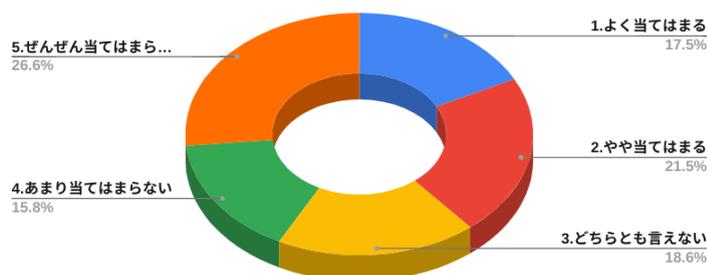
- ・授業が楽しかったり、自分に合ったペースで過ごせたりできる環境を求める傾向が見られる。特に、「ゆっくり休める場所がある」については、肯定的な割合が最も多く約8割となっている。

## 学校を休んで思ったこと・感じたことを教えてください。設問35～41

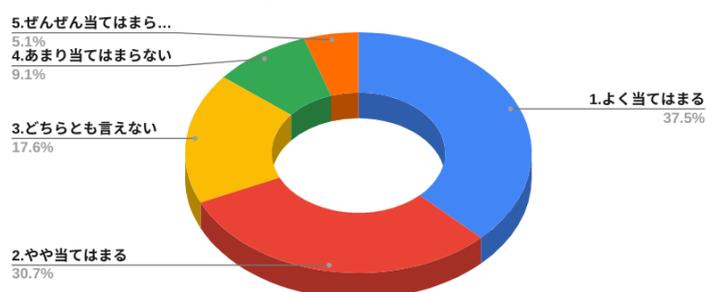
### ➤ 設問35 (学習の遅れが不安)



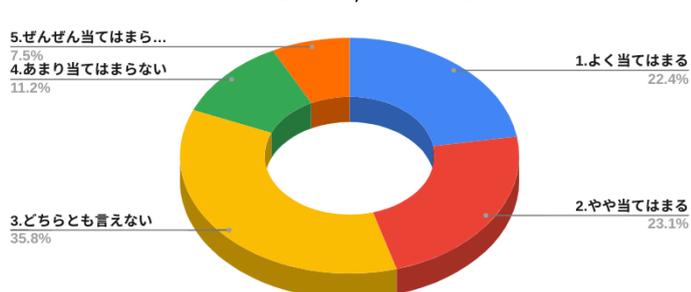
### ➤ 設問36 (友達との関係が心配)



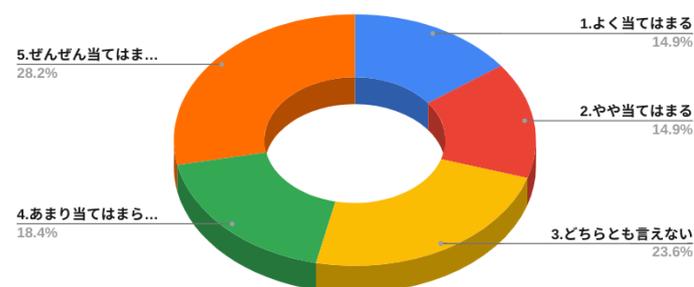
### ➤ 設問37 (自由な時間が増えて良かった)



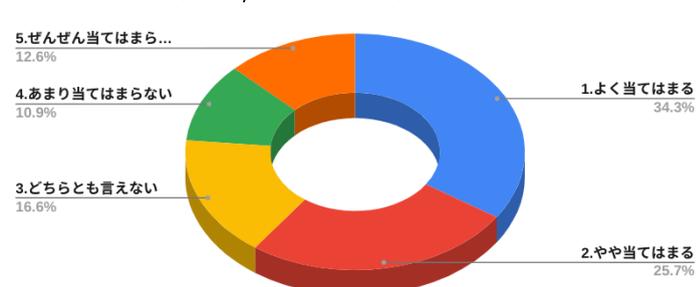
### ➤ 設問38 (落ち着いた/ほっとした)



### ➤ 設問39 (学校に戻りたかった)



### ➤ 設問40 (将来/進路が不安)



### ➤ 設問41 (自由記述)

#### 主な回答

- ・休んでいることで勉強が遅れることが心配だが、やりたくない。
- ・出席日数が直接成績に関わってくるので心配だ。
- ・充実してる時間だなと思う。
- ・もっと体をたくさん動かしたい。

#### 概要と傾向

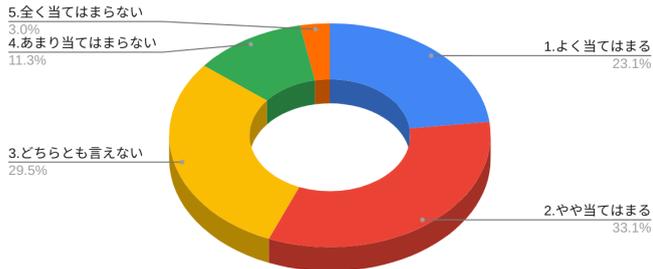
「学校を休んで思ったこと・感じたことを教えてください。」について

- ・学校を休んだことによって、自由な時間や落ち着いた環境を得られたことを概ね肯定的に捉えている傾向があり、「学校に戻りたかった」と回答している割合は少ない傾向にある。
- ・学習の遅れや、将来・進路への不安を感じている割合は、約6割となっている。

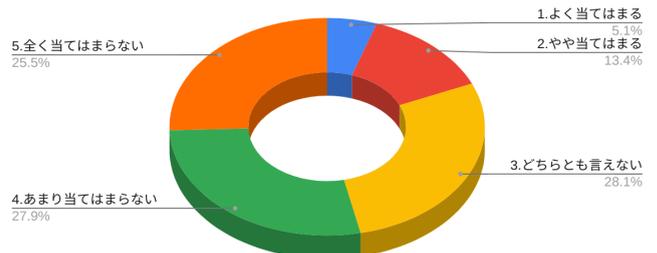
## ＜保護者への設問＞

### 学校を休んでいる時のお子様の様子を教えてください。設問15～20

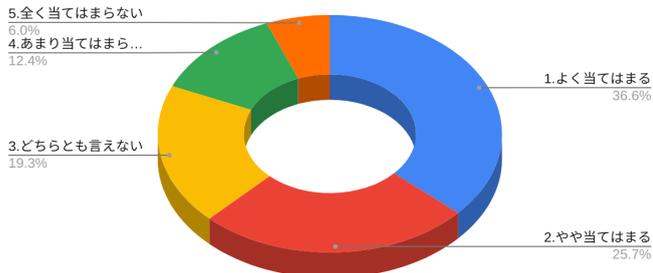
#### ➤ 設問15 (家族とのコミュニケーションが増えた)



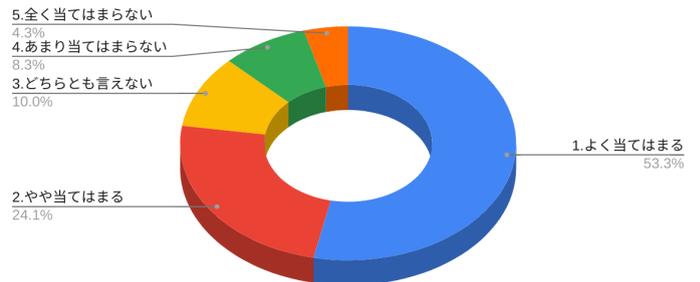
#### ➤ 設問16 (家族以外とのコミュニケーションが増えた)



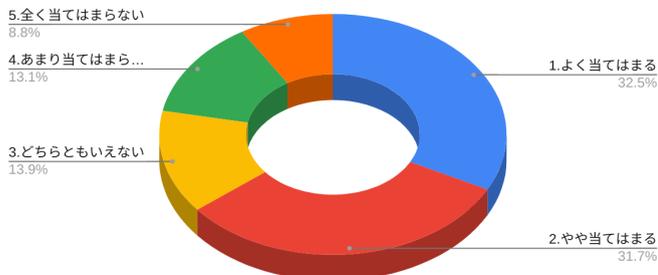
#### ➤ 設問17 (不安やストレスが見られた)



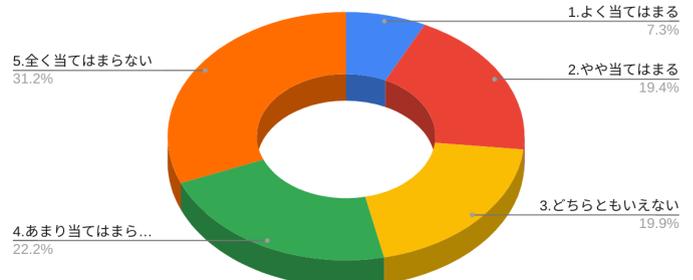
#### ➤ 設問18 (ゲームやインターネットなどの時間が増えた)



#### ➤ 設問19 (生活リズムの乱れがあった)



#### ➤ 設問20 (学習には定期的に取り組んでいる)



### 概要と傾向

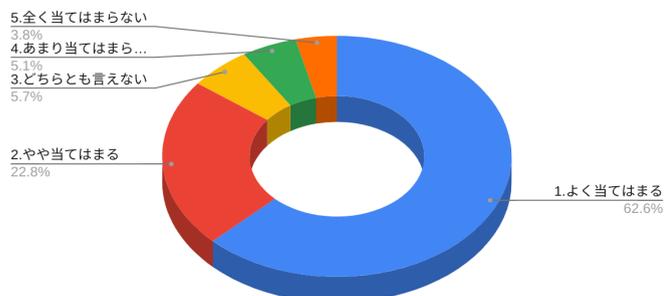
「学校を休んでいる時のお子様の様子を教えてください。」について

- ・半数以上の保護者が、子どもと家族とのコミュニケーションが増えたと感じている。
- ・児童生徒の回答では、学校に行かないことに対して「自由な時間が増えてよかった」「落ち着いた／ほっとした」とポジティブに捉える割合が半数を超えていた一方、保護者は子どもが不安やストレス、生活リズムの乱れを感じていると捉える割合が半数を超えており、感じ方に違いが生じている。
- ・保護者が「ゲームやインターネットなどの時間が増えた」と感じている割合が約77%、また、「学習には定期的に取り組んでいる」と感じている割合が約27%となっており、ゲームやSNSの使用、学習面が保護者の大きな不安要素となっている可能性がある。

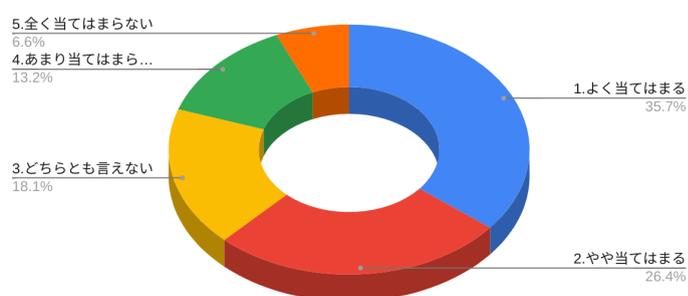
**お子様が学校を休んでいる時に、保護者の方が不安になっていることを教えてください。**

**設問 2 1 ~ 2 7**

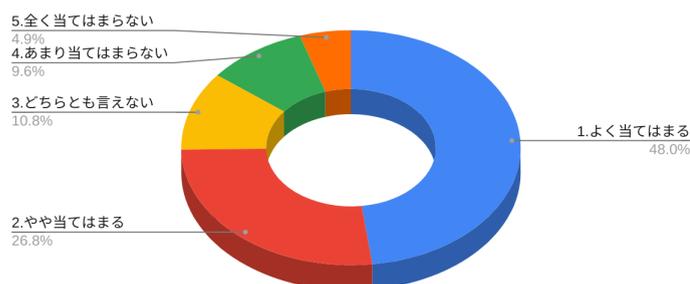
➤ 設問 2 1 (子どもの学習の遅れ)



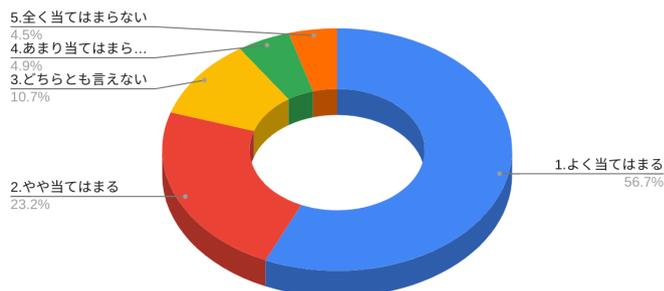
➤ 設問 2 2 (子どもの友人関係)



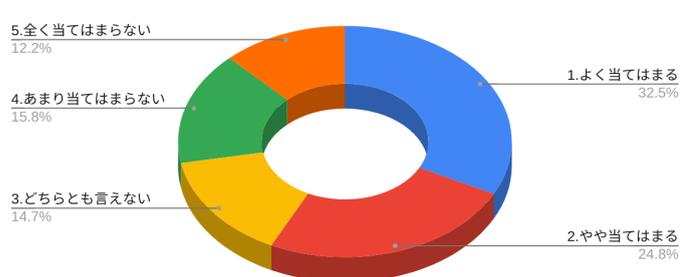
➤ 設問 2 3 (子どもの社会や周囲との関わり)



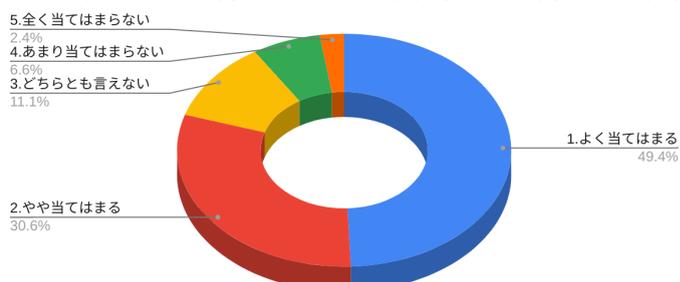
➤ 設問 2 4 (子どもの将来や進路など)



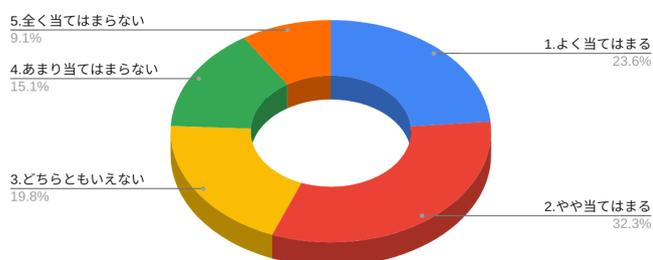
➤ 設問 2 5 (家庭の費用負担)



➤ 設問 2 6 (子どもの体調面 (運動の習慣など))



➤ 設問 2 7 (保護者の方自身の体調)



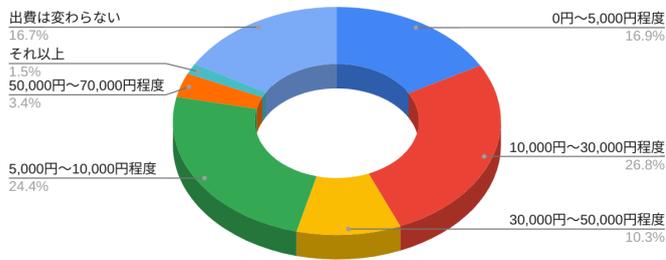
**概要と傾向**

「お子様が学校を休んでいる時に、保護者の方が不安になっていることを教えてください。」について

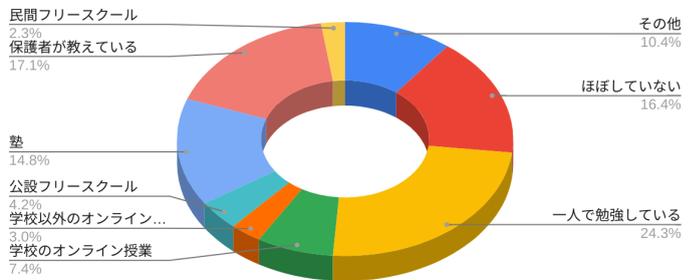
- ・児童生徒も学習の遅れや将来・進路について不安を感じているが、児童生徒以上に保護者が不安を感じている割合が高い傾向が見られる。
- ・保護者が不安を感じる要素も、学習面、友人関係、周囲との関わり、将来のこと、体調面など多岐にわたっている。

## 学校を休んでいる時のご家庭の様子や状況について教えてください。設問28～36

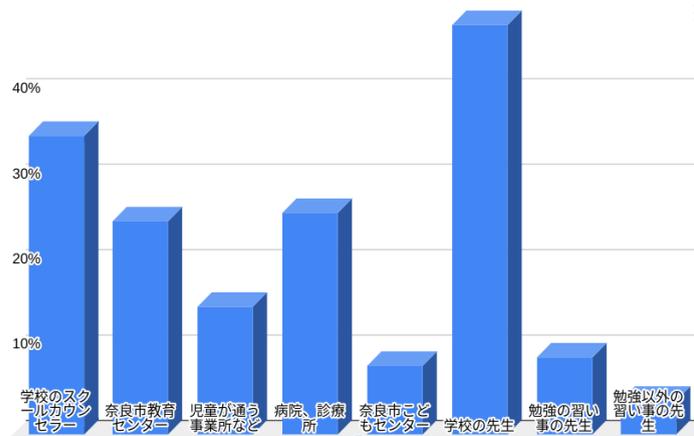
### 設問28 (一月あたりに増えた家計の出費)



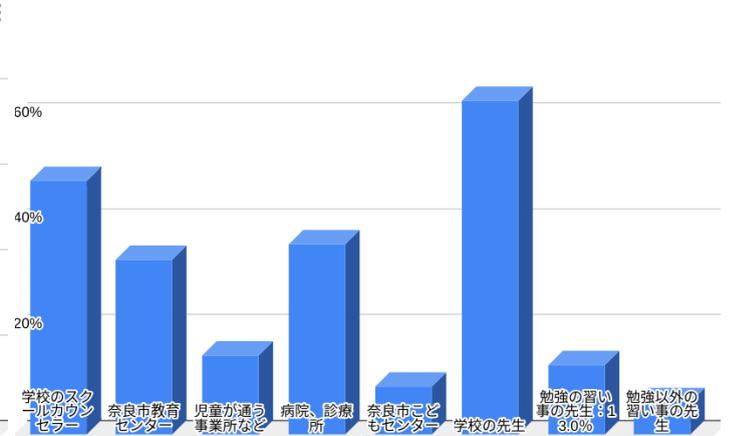
### 設問29 (学校を休んだ時の学習方法や自習ツール)



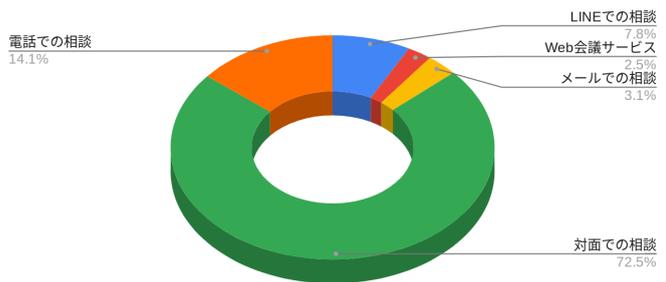
### 設問30 (保護者の方が相談しやすいと思う対象)



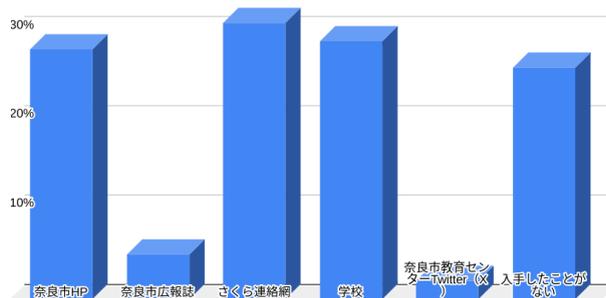
### 設問31 (保護者の方が実際に相談した対象)



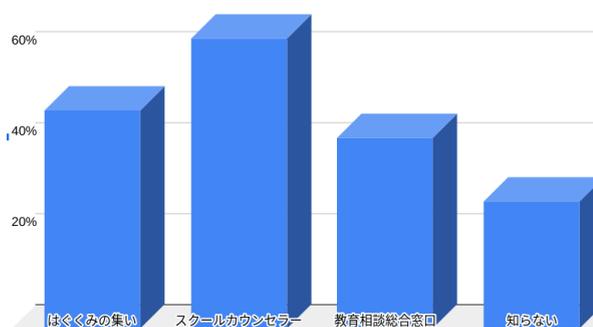
### 設問32 (保護者の方が相談しやすい方法)



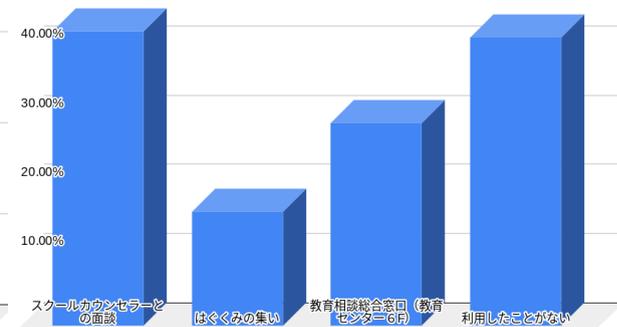
### 設問33 (不登校支援情報をどこで入手しているか)



### 設問34 (奈良市の保護者支援で知っているもの)



### 設問35 (利用したことがある奈良市の支援)



➤ 設問36 不登校支援に関することを教えてください。(自由記述)

主な回答

- ・児童生徒が安心して出かけられる場所や、フリースクールの充実を希望する。
- ・オンライン授業の充実や、タブレットを活用した学習の支援が必要だ。
- ・気軽に相談できるカウンセラーや専門家の存在が必要だ。
- ・経済的な支援や、学習の補助が必要だ。
- ・保護者が集まり、情報交換や支え合いができる場所が必要だ。

概要と傾向

「学校を休んでいる時のご家庭の様子や状況について教えてください。」について

- ・家庭の出費は、月に5,000円から30,000円増えたと回答した割合が半数を超えている。学校を休んだときの昼食費や学校以外の学びの場を利用する費用など、状況によって異なると考えられる。
- ・多様な学習方法や形態の中から、児童生徒に合った学習スタイルを探し、取り組んでいる様子が伺える。
- ・保護者の相談先としては学校の先生の割合が一番高く、次いで児童生徒の回答とは対照的に、スクールカウンセラーの割合が高い。

## 【調査結果を踏まえて】

今回のアンケート結果を通して見えてくる児童生徒の傾向としては、

- 学校を休んだことで、ほっとした面と、学習や進路に対する不安を感じる面のどちらの気持ちも感じている
- 学習や進路に不安を感じていながらも、定期的な学習には取り組めていない
- 気持ちが疲れた際に、心や体を休めたり、自分の合ったペースで学習に取り組んだりすることができる学校内の居場所を求めている
- 家族以外に相談している対象が少なく、社会とつながりを持ちにくい環境に置かれているといった点が挙げられる。

また、保護者の傾向としては、

- 学習の遅れ、将来の進路、体調面、社会や周囲との関わりなど、様々な面で不安感が高い
  - 学校以外の学びに対する費用や、昼食、通院等に係る費用など、出費が増えている可能性がある
  - 相談先として最も多いのが学校の先生で、次いでスクールカウンセラーである
- といった点が挙げられる。

この結果を踏まえ、子どもが安心してやりたいことに取り組める学校内外の環境づくりや、学校以外の学びの場の確保や充実といった子どもの心や学びを支える取組とともに、保護者の不安を軽減するための相談体制の充実や情報提供、多様な学びについての一般的な理解といった保護者を支える取組を併せて検討していく必要がある。